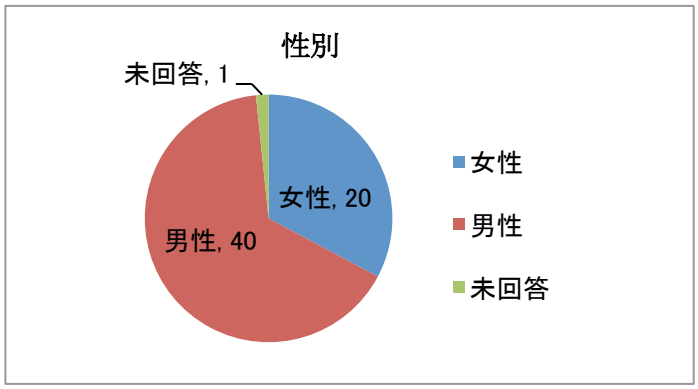
広域大規模災害時のボランティア活動の体制検討ワークショップ in 高知
（災害ボランティアセンター中核スタッフ実践講座）
【ふりかえりシート集計結果】

1.属性について

1-1.性別

女性	20
男性	40
未回答	1
総計	61

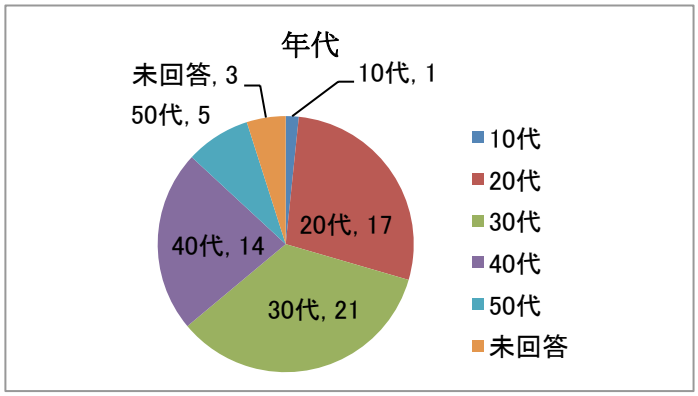
（単位：人）



1-2.年代

10代	1
20代	17
30代	21
40代	14
50代	5
未回答	3
総計	61

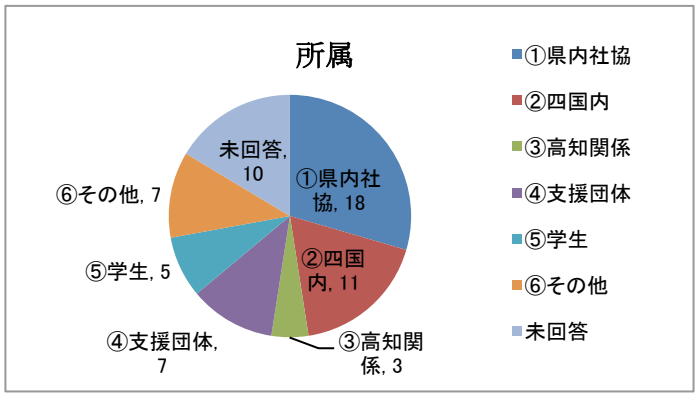
（単位：人）



1-3.所属

①県内社協	18
②四国内	11
③高知関係	3
④支援団体	7
⑤学生	5
⑥その他	7
未回答	10
総計	61

（単位：人）

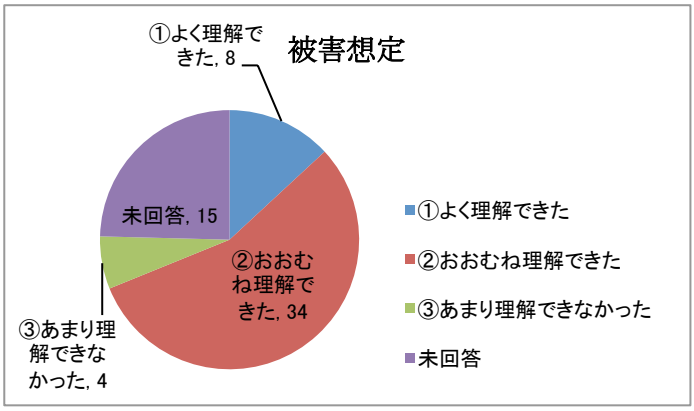


2.質問への回答（1 日目）

2-1.「被害想定」について

①よく理解できた	8
②おおむね理解できた	34
③あまり理解できなかった	4
④理解できなかった	0
未回答	15
総計	61

（単位：人）



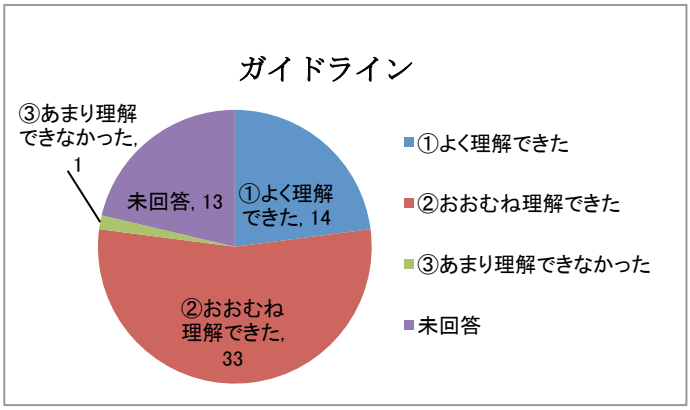
【自由記述】一部抜粋

・難しかったです。あとで見直します。
・何となく理解はできたが、もう少し勉強していきたいと思った。
・県外からにて、土地勘がない、地域性を知らないことを、地元の社協さんに聞き取りながら理解した。数字の読み込みが難しくも面白かった。
・県のご担当者はよく勉強されていると思います。さすがです。
・被害想定の計算結果については特によく理解できた。東日本大震災の状況を考えながら、イメージする事ができたので、とても参考になった。
・九州でも南海トラフの地震が起こったらとかなり心配されていますが、こんなにも被害が大きい想定がされていることにおどろきました。
・市町村別に想定されているため、自分のところだけでなく近隣市町村の状況を理解できたよかった。
・地図へのアクセス路記入の際、津波の範囲等も併せて記入するなどすれば、さらに良かった。
・事前に資料を配布しておいてもよかったのでは。
・数字で現していただいたので理解できました。
・地理状況がイメージできなかった。
・詳細な被害想定結果（ライフライン・避難所の状況等）をも出してもらったので、イメージしやすかった。
・とても細かい点まで想定しているのだと初めて知りました。そして様々なパターンを考えて想定していることに感心しました。今までよりもっと深い部部について知ることができてよかったです。
・詳細な情報を提供いただけて、ありがたかったです。
・被害想定をそのまま印刷しているので、内容を一度読んだことのある人間でないと直ぐにイメージゲームに活かせない。

2-2.「ガイドライン」について

①よく理解できた	14
②おおむね理解できた	33
③あまり理解できなかった	1
④理解できなかった	0
未回答	13
総計	61

（単位：人）



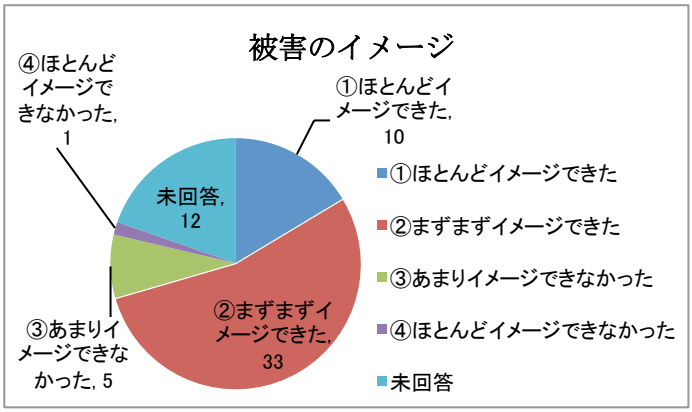
【自由記述】（一部抜粋）

・バックヤードの重要性を認識しました。沿岸部が津波で被害を受け、機能を停止するということで、山間部からの支援を受けるためにも山間部の復興が必要であると思いました。
・ガイドラインに関わっていたので内容は把握しているが、まだまだ振り返りが必要だと思った。
・ガイドラインはあくまでペーパーなので、実際に動かすことが必要で、本日がまさにその実践の場にしたい。
・ガイドラインの基本的な考え方がよくわかった。広域支援拠点の必要性はよく理解できた。
・ポイントはよくわかった。
・県外団体としては地域名（安芸など）の地理を説明する際に地図（色わけがあるもの）などを使ってもらうとありがたいです。
・5 年ごとに改定（見直し）とのお話しだったのですが、そのスパンで大丈夫かな…？と思いました。
・バックヤード拠点、具体な広域連携を考える必要性を感じました。
・具体的にはよく分からなかったので内身をきちんと見たいと思います。
・沿岸部を山間部が支える仕組み、バックヤードの仕組みは理解できた。
・対策をしっかり考えないと、機能しなくなってしまうのだと改めて分かりました。地域地域での対策をしっかり考えていきたいと思いました。
・共に支援に入る本山町との打ち合わせが出きれば…支援先の香南市とも…。
・バックヤード機能について、もっと知りたかった。
・上記の「被害想定」同様、有益な情報が沢山あったので、こちらがすぐに吸収できない部分がありました。また復習したいと思います。
・バックヤードシステムは運用がむつかしいだろうなと思いました。

2-3.「被害のイメージ」について

①ほとんどイメージできた	10
②まずまずイメージできた	33
③あまりイメージできなかった	5
④ほとんどイメージできなかった	1
未回答	12
総計	61

（単位：人）



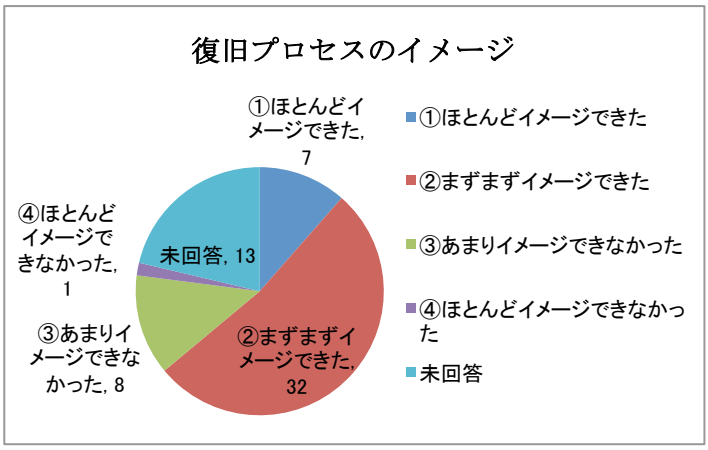
【自由記述】（原文ママ）

・地域によっては２ヶ月たっても進まないところがあって、支援やボラセンがたつまで大変だと思った。
・うすうす感じていたが「覚悟しておくこと」、被災後は人は来ない、実はこわれるなど。
・広範囲の為、全地域を確認することは難しかったが、地図を見るだけでも参考になった。
・地形に差のある地域だったため、わかりやすかった。すみずみまで支援するには時間がかかるがもともと持ってる資源も豊か、生き残れはやすし、こりつはするが。
・過去の災害現場の状況が走馬灯のように頭の中をめぐりました。但し、参加者のレベルが異なるので写真や動画を作って全体でイメージしても良いと感じた。
・地図に落とし込む事により、ブロック内の状況が理解できた。
・実際の土地勘がもう少しあれば、もっと理解できたと思う。
・地理感がわかって良かった。
・家屋の倒壊はわかったが、山腹崩壊などによる道路被害がイメージできなかった。
・もう少しゆっくりと意見交換しながら出来ても良かったと思います。
・「被害想定」で話された内容が地図におとされて具体的な被害が見えた。かなり厳しい現実をつきつけられた。
・今までの支援経験からの意見しかできなかった（土地を知らないから）。
・自分の社協が完全にあぶないという現実を再確認、職員みんなブジでいられるよう、社協内でいろんなことを検討することが必要。
・高知県内の方からそれぞれの市町の状況をお聞きすることで、県外者では分からない部分を知ることができ、それを含めた上で議論できたように思います。
・西日本全体の状況を説明することで、広域災害のイメージがしやすかった。
・イメージして、みればみるほど、対策をしっかり考えないといけないと感じました。
・地図に落とすことで見えてくるものがありました。
・県内情報がもっとあればイメージしやすかったと。
・社会福祉協議会をはじめとする東日本大震災の事例を先に紹介していただかないとイメージに限界がある。

2-4.「復旧プロセスのイメージ」について

①ほとんどイメージできた	7
②まずまずイメージできた	32
③あまりイメージできなかった	8
④ほとんどイメージできなかった	1
未回答	13
総計	61

（単位：人）



【自由記述】（一部抜粋）

・山間部と沿岸部で差があることがわかった。社協さんとかが大変だと思いました。
・自分の市町の被害想定、避難所など、全体のイメージができていないと復旧プロセスのイメージができない。
・実際には、想定以上にバラバラで動きそうだと思った。拠点を設定し得たのはよかった。
・山間地の被害のイメージが少し不足しているように感じた。
・もう少し細かい地域別に出来たらより面白いと思う。
・1 週間→2 週間→1 ヶ月→2 ヶ月と理解できた。1 ヶ月後、2 ヵ月後のイメージまで行けなかった。
・各市町の資源の洗い出し→具体的なワークでイメージしやすかった。
・被害の大きさで長期間を見通すところまでいかなかった。
・他の市町村の状況をきくことができて良かった。復旧をしないといけないことは分かるが、実際被災するとどうすればよいか不安。同じ市に沿岸部、山間部あり、どのように支援していけばよいか。。。
・自身の経験をふまえイメージすることがある程度できた。
・近隣社協との連携がやっぱり重要。日頃からの連携を意識する。
・県内参加者と県外のメンバーの意見交換がかみ合い白熱したギロンができた。
・内陸部の支援の大きさを実感しました。
・隣接県からの情報がもっとあればイメージしやすくなると思います。
・想定ほど復旧できないという考え方は新鮮だった。被害は高知だけじゃない…。
・社会福祉協議会をはじめとする東日本大震災の事例を先に紹介していただかないとイメージに限界がある。

2-5.地域での取組について（一部抜粋）

・どの地域にどんな年代の人、どのくらいの人がいるのかの把握。
・備蓄の確認。
・どの道がふさがれる可能性があるのかなど、避難経路の確認。
・外からの支援が入ってくるまでの内での対応を強く感じた。
・沿岸部、山間部、近隣のイメージをもっとふくらませ、地域で活動できる体制を作っていきたい。
・地元の社協の方の意見を聞いていて、少し高知の事がわかったように感じた。
・もう少し近隣市町村と県外の連携を考える必要があると思う。
・徳島県でも種々な団体が取り組んでおり、今後の参考にしたい。
・私たちの団体は、災害があったときに、いかにインスリンを運べるかが大事なのですが、今日のように災害の被害を想定し、無事な医療機関を考えておくことが重要だなと感じました。
・団体としての取り組みとなりますが、交通網のマヒに対応できるよう備えを考えたいです。
・自分の住む地域の復旧と同時に、市内等からの避難者の受け入れができる体制を考えていかなければならないと思った。
・地図を使った小地域の資源、ライフライン洗い出し。
・災害時のこと、災害ボラセンのこと等、地域においても、関係者とも、また広域においても話し合いが十分ではないため研修も行いながら検討していきたいと思いました。
・社協内は勿論、町の防災担当との連携。住民への周知をしていきたい。
・中山間地域との協働。
・常日頃から、地域ごとにコミュニケーションを取り合うことが必要と感じた。継続的に（できれば年 4 回くらいは．．．）今回のような機会をもって、災害発生時の初動をえんかつにおこない、その後の復興につなげていきたい。
・自分の地域の特徴を理解すること、住民に理解して頂くことが大切と思いました。
・職員同士の共通認識（被害想定とか）。他市町村との普段からの連携。
・愛媛県内のみの協定ではなく、広島県との協定。
・避難して来る被災者の対応。
・被害想定を具体的に持つ。地域課題を整理してとりくむ。
・ワークを行ったのは中央東で大学や住んでいる所のある中央西とは少し遠い場所だったのですが、山部や市内での対策やくらしが異なってきていて、とてもよい経験になり、勉強になりました。これからボラセンでしっかり地域に密着した対策を考えなければと思いました。
・地域で課題を把握しておく必要があると感じました。今日のようなワーク形式で住民と話し合えたら良いなと思いました。
・バックヤード機能として、大事な土地でもあるので、バックヤードの事を知る事と、地図を見ながら地域の災害時危険場所や要援護者がどこにいるのか、また地域の資源は何があるのかを地域の人達と地域を振り帰る時間を取りたい。
・数字でよみとれたことは今後の対策に大変役立つ。ただし、なぜそのようになっているのか質問したいところも多かった。
・方法、手順は十分に参考になるので、自分の地域に持ち帰って、もっと小さい範囲で具体的にイメージしながら進めていきたいと思いました。
・地域での役割をもう 1 度確認しつつ、日々の業務を考えていきたいと思う。もう少し、住民のニーズをよく知る工夫を進めたい。

2-6.自由記述（原文ママ）

・都合でワークには参加できず、最後のみなさんの発表をきくだけになってしまいましたが、それだけでもすごくいろんなことを吸収させていただくことができました。日をおって想定というのはやったことがあったけれど、その時とはちがう視点の意見もあって、学ぶことができました。実際に地図を使って、どの地域に物資がたくさん行くのか、どこから送られて入ってくるのか、どこに届きそうにないのか、も考えて想定しておく必要があると学べました。明日からまた、よろしくお願いします。

・被害想定や復旧プロセスを考えることで、高知県の被害に合った支援や復興を考える機会になりました。

・広域訓練なので、広域の応援の体制にも触れる必要があるのではないか。

・復旧がすすまないという想定をするという発想は正直、目からうろこの発言だった。

・自分自身も含めて、市外の社協職員が多いため、社協職員内でも意識統一を図ることが必要と改めて感じる。津波の被害想定の図はよく目にするが、危機感があまりない方もおられるので、自分のこととして捉えてもらえるようになるためには、どうすればよいか、学びたい。

・県外の方に入ってもらうことで改めて自分達の地域について深く知ることができてよかった。

・プロジェクターやホワイトボードが見えなかったので残念でした。勉強不足で皆さんについていけなかったので、自分の地域のことをふくめ、勉強してきます。

・ワークを進めていくうちに高知の方々の発言がどんどん具体的になっていくのが印象的だった。自分自身も外からの支援に入るとするとどうなるだろう？？どうやって入っていけばいいだろう？？ということを考えることができ、良い機会になったと思う。

・自分の身近な地域（広域）の状況を地図におとしたり。グループワークにより１週間から２ヵ月後について具体的に考えることができ、少しイメージができたと思います。経験されている方々の意見をきいて学びを深め、地域にもちかえりたいです。

・グループワークは活気がありよかったが意見が飛びかい、なかなかまとめたり落としこむのが難しかった。ブレストは十分にできたと思うが、もう少し踏み込んだ議論もほしかった。県外の人間なので、地名についていけないなど、勉強不足が多々あった。部屋はもう少し広い方がよかった。

・復旧プロセスについてなど、おおまかな生活のイメージをつかむセッションと、具体的な復旧の流れを学ぶセッションがあれば、更によかったのでは。

・他の市町村との関係も大事にしていく必要があると感じました。

・発災時ににについて仕事のことも家族のことももっと具体的に考えていかなくてはいけないと感じました。

・避難経路はもちろんだが避難者の受け入れ先が不足していることを強く感じた。

・とにかく具体性に富んだ情報がいただけて参考になりました。

・高知県の取り組みの熱意を感じた。今後も訓練を重ねていくことで、よい成果がでていく手ごたえを感じた。

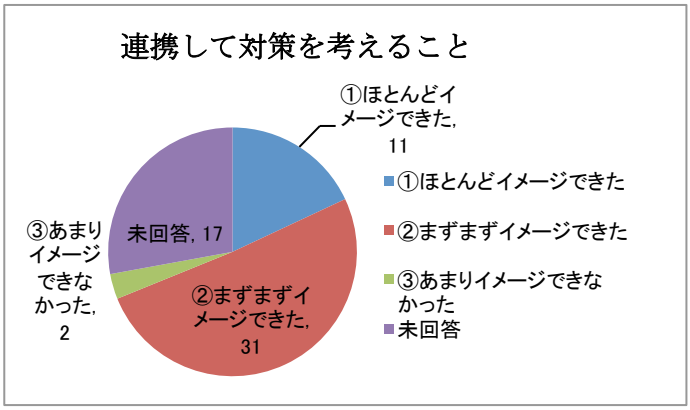
・時間がもう少しあるとよかった。よい学びの半日となりました。感謝します。

3.質問への回答（2 日目）

3-1.「連携して対策を考えること」について

①ほとんどイメージできた	11
②まずまずイメージできた	31
③あまりイメージできなかった	2
④ほとんどイメージできなかった	0
未回答	17
総計	61

（単位：人）



【自由記述】（一部抜粋）

・“連携する”って一言で言うのは簡単だけれど、それを実行にうつすためには、いろんな団体や人がかかわってくるのだと学んだ。また、避難所を在宅、山と海とでも、ニーズや支援のあり方が異なってくるのだとも感じた。

・被災して“困っている”人はどういう人なのかを考えたときに、避難所での困っている人、在宅での困っている人、共通な面も色々あるけど、それぞれに応じた対策、問題点を考えていかなければならないと思いました。それを見つけるためにはたくさんの人たち（行政、看護師、保健師、地元の人）が関わるのだなと思いました。

・連携して支援することの難しさが分かりました。どんな人が困っているかを洗い出し、その人のニーズに応えることは難しいことだけれど、課題として解決しなければならないと思いました。

・連携の難しさを改めて痛感したが、県外からの意見を聞くことで地元では出てこない発想を感じることができた。

・外部の支援団体としては、被災地の関係機関が事前に想定している連携について理解を深めることができ、また、被災地になり得る地域の社協さんに、NGO ができることも加味して議論を進めることができ、よい支援の場となったと思う。発災後の現場で、団体間で誰が何をするのかで混乱することもあるので、こういった事前のスミワケができていると、混乱も少なく支援できる。

・避難所、在宅における困った方々の状況が把握できた点はよかった。その人達にどのような支援を誰が行うのかという点については、もっと具体的な協働のおとしこみが必要であると感じた。

・避難所などでどのような人へ支援が必要かということに気づくことが改めて大切だと感じました。

・様々なニーズへの対応方法などを連携して考えること、また組織が連携することにより課題解決につながることなどをイメージできた。

・特にグループ間で発表・共有したことで、色々な視点が得られたのはよかったです。

・ひとりひとりではイメージできない、考えが及ばない部分も多様な人が話し合うことで様々な考えが出てよかった。

・自分自身が災害や被災地に言ったことがないので、イメージがわかず、話しを聞くことが多かった。

・沿岸部、山間部、考えられて支援の対象者は同じ。ニーズの出し方、アプローチの方法はそれぞれの市町村で異なることもあると思うけど、連携できるところはすごくたくさんあると思うし、活動のヒントになることも多くあるとワークをして感じました。

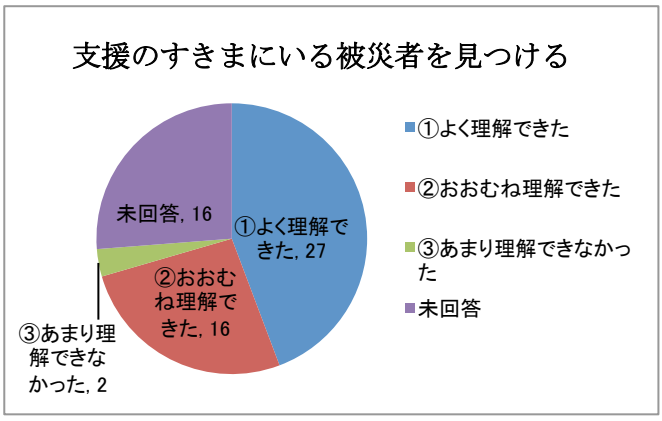
・連携の具体例などをテーブルで話し合う時間があれば良かった。NPO の話が少なかったイメージ。

・昨日議論したブロックごとの状況が把握できたので、全体像が見えた。

3-2.「支援のすきまにいる被災者を見つける」について

①よく理解できた	27
②おおむね理解できた	16
③あまり理解できなかった	2
④理解できなかった	0
未回答	16
総計	61

（単位：人）



【自由記述】（一部抜粋）

・支援が必要なはずだけど、それを声にできない人、声に出さない人を、こちらからのアプローチで探し出すことの重要性を学んだ。実際の避難所の写真を見て、この状態では、本当に支援が必要な人がどんどん埋もれていってしまうなと思った。

・実際に避難している様子をみると、想像とちがってせまく、みんなが密集してプライバシーさえも守れていない場所での生活に驚きました。果たしてその人たちのニーズに応えられるのか…と思いました。

・心の声をきくことが大事だと思いました。本当に困っていてもなかなか言いだせない人は日本人なら多いと思うので、うまく話をきくことが必要だと思いました。

・「連携して対策を考えること」で考えていたことのヒントとなることも多くて、そのワークをしていたことで、より理解を深められた部分もあった。支援が必要であると訴えていない人にも気づくことができるようなアンテナをはることや、各々で活動するのではなく、連携する、協力するということが大切だということを改めて感じた。

・ハイリスク予備軍の見つけ方やアウトリーチの重要性。支援の基本の課題の共有→検討→プログラムづくり→実施のルーティーンを様々な協力者がいっしょになって行うことの重要性がわかった。

・トイレの改修や段差の解消など具体例をあげての説明はわかりやすかった。

・すきまをまず見つけることが必要だということについて、色んな意見が出て面白かったです。多様な人（ボランティア含め）が関わることが重要と思いました。

・支援を必要としているにも係わらず声を出せない人や、緊急支援が必要な人などを助けるための活動（行動）が必要不可欠であると感じた。

・被災者の状況イメージを持たせ、かつ具体的な対策方法を知ることができ、わかりやすかったです。

・自分の地域だけでがんばるのではなく、他の力も上手に借りながら、より良い支援方法を考えていくことができれば、復旧も少しでも早いかもしれない。⇒受援力を養っておかないと。

・声を拾うだけではなく、具体的なカタチにすること、行く先をみすえた提案、具体的でわかりやすかったです。

・印象に残ったのは震災関連死について。支援のすきまにいる被災者を見つける為の具体的な方法を考えていかなければと思った。

・多くの方の視点が類似していたので、本来はもっと数多くの支援の種類や数があると感じた。

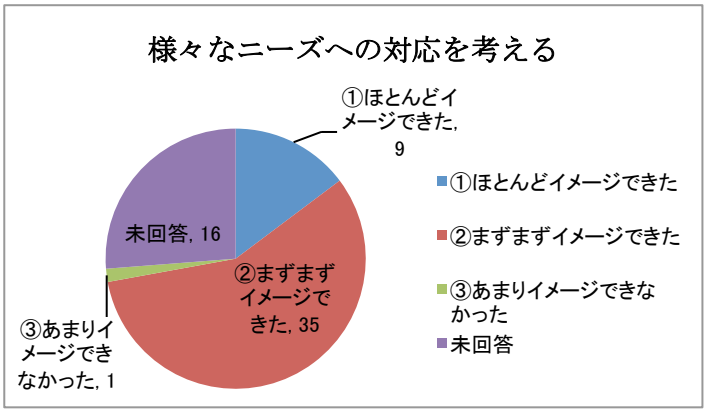
・こまっていることを声に出せない人は災害時に限らずいると思う。日頃の業務がら、アウトリーチ等支援していくことが大事。

・どこに「すき間」が生まれるか、制度的、地理的、時間的に整理ができるようなワークになれば、更に良いのでは？具体例もあげながら物資、引っこし、移送などなど。

3-3.「様々なニーズへの対応を考える」について

①ほとんどイメージできた	9
②まずまずイメージできた	35
③あまりイメージできなかった	1
④ほとんどイメージできなかった	0
未回答	16
総計	61

（単位：人）



【自由記述】（一部抜粋）

・C 案みたいに、Yes、No の 2 択じゃない、あらたな発想による行動を考えることこそが大事なのだと分かった。

・1 人 1 人の声は大事にしていきたいが、どれを優先するのか、声をきいたらそれを実行、解決しないといけないのか、と思いました。

・避難所で起こりうる様々な不都合に対して、まずは運営委員をはじめ生活する人のなかでなんとかやりくりする体制を整えることが必要だと思いました。

・視野を広げること多角的に物事を考えてみることの大切さを改めて感じました。

・被災者の生の声からニーズを読み解く事とそれを整理し解決するアクションプランを作成し、実行することの重要性と難しさ。

・支援団体の職員として、プログラムを作ることは日常的ではあったが、他の団体や仕事の方と連携してプログラムを組むことは少なかったため、それぞれの得意分野を知ることができ、良かった。

・社協だけでは対応は無理だということを、できればもっと多くのセクターの人と協議できればよかった。

・様々なニーズを把握する方法や、それに基づく具体的対応策の策定の流れがよく理解できた。特にアクションプランの担い手及び連携先の団体などを考える視点は大変重要だと思う。

・被災者の声からニーズをくみ取る難しさを感じた。自分たちの NPO に出来ること、そして、出来ないことを把握し、出来ないことをカバーしてくれる団体を見つけ、関係を深めておく必要性を感じた。

・「ニーズを具体的に『家の片付けで 5 人のボランティアの人に来てもらいたい』と言って来てくれる人はいない」と話がありその通りだと思った。話の中（ぐちの中から）ニーズを見つけることの重要性を感じた。

・被災者の声からニーズを明らかにし、言語化、そして具体的な計画、実行していくことは、多様なニーズがある中で限られた資源の中で考えていくことは難しさも感じました。他の取り組み、アイディアも参考にされていただきながら支援プログラムの検討について考えていきたいです。

・イメージすることはできたが、具体的に、それに対する対応、支援についてはイメージしにくかった。

・1 つのニーズからたくさんのニーズがどんどん出てくるやろうなって、ニーズを引き出すか、きづくかも大切。支援者としても困ったときには身近な人（NPO や地域団体、近隣の社協）に「たすけて」と言えるようにしたい。

・クロスロードは意見が割れず（14:0）議論になりにくかった。問合せへの対応は、高知県・ワーキングメンバー以外はイメージしづらく議論がでてきにくかった。

・クロスロードはこれまで何回もやったことがあったが、今回は C 案（アクションプログラム）まで考えることをやって、すごくためになりました。また、C 案を考えることで、クロスロードがより生きることを実感しました。

3-4.自由記述（原文ママ）

・今まで、学生同士の災害時の対策やボランティアについて考えていましたが、たくさんのグループの人たちの意見、県外、県内の社協さんの意見などなど、学生以外の声をきけたことはとてもとても良い経験となりました。“高知”というアバウトに被災後について考えていましたが、沿岸部、内陸部、山間部で求められるニーズが違うこと、実際の被災された避難所での映像、たくさんの視点から考えることが大切だと思いました。それぞれの地区の特徴を学ぶきっかけにもなりました。

・経験や知識では補えない、事前準備の大切さを痛感した。避難者の動きを知れたことも良かった。いい支援をするための、クリアなイメージの大切さ、同感。

・広域連携という主旨からすると、内容は再考の余地あり。参加者の偏り（社協ばかり）、プログラムの広域連携との関係性、南トラ全体の被害想定の理解、「リエゾン」をどう解説するか。

・今回は南海トラフ巨大地震の想定であったが、局所的な災害の場合は四国内で、他県からの支援が得られると考えられる。例えば、徳島県内には中央構造線が走っているので、直下型地震も考えられ、逆に高知からの支援も必要になるかもしれません。各県の状況の紹介などが（参加者の資料）あれば、よかったと思います。

・県Ｖ本部（都道府県レベル）の活動は、なかなか具体的にイメージしにくい部分が多く、ワークを進める難しさを感じた。一方で、実際の災害時も現場の動きが見えず、また色々な支援団体の人々が初めて顔を合わせたりする中で、こんなふうに混乱するのだろうということを体験できたように思う。

・行政の職員さんにも、もっと参加していただければいいなあと思いました（県対本部との関係にもつながる）。いろいろ学び、ヒントが多い２日間でした。ありがとうございました。

・特に県外の方からこれまでの体験やアイディア、意見等からイメージをふくらませながら考えていくことができました。今回ワークを通して出てきた意見、アイディアも参考になると思うので、まとめの資料などがいただけたらうれしく思います。

・講義とワークが適度に組まれ、理解がより進みました。ある方が仰っていたように、日頃から、町内各所において意識して関係者（要援護者など）のことに気を配りながら、こうしたワークも継続していきたいと思います。（2 人でのシェアを受けて）県外の方とのシェアを通じ、域内のことだけでなく、県外からの協力、支援のことをも意識することも、とても大切だと感じました。

・支援をする側として、何かしらのアクションを起こす時の合意形成に難しさを感じた。瞬間瞬間の対応は必要でスピード感も大事だが、後々何かの問題につながると考えるとフットワークが重くなる。何を目指して活動するのか、いつまで活動するのか、復興は、復旧は？…考えるとキリがない。イザという時に動けるよう、常日頃から準備したい。

・県内だけでなく県外からの意見が聞けた。最後にやったワークで情報収集・発信など大切だが難しい。

・NGO の緊急支援の動きをもう少し知ってもらえる内容も今後検討してはどうか。

・濃い内容で良かったが、一つ一つの時間が少し足りなかった様に感じました。参加していない社協には「もったいない」と言いたい。おつかれさまでした。

・これまでの被災地での社協を含む具体事例とともに、支援の急所についてレクチャーがもっとあったら、より深い議論ができたと思います。

・高知県内の“特に被災しない地域”のモチベーションを高める（どう支援するのか、受け入れるのか）ことが、今後大切であるように感じました。本講座は新たな切り口が多く、本当に内容が濃いと思いました。スタッフのみなさま、お疲れさまでした。

以上